

月刊誌「倫風」4月号会報 April 2023「特集『サードプレイス』を持っていますか？～“ゆるい繋がり”を考える～」

## 「サードプレイス」を持っていますか？～“ゆるい繋がり”を考える～

1. (1) 家庭を第一の居場所
- (2) 学校や職場を第二の居場所とすると
- (3) 趣味やボランティア、友人の集まりなどを第三の居場所、「サードプレイス」と呼びます
- (4) そこには、人間にとって欠かせない
- (5) ゆるくて心地よい、気楽な関係性があるようです



2. (1) 子どもは子どもらしくいられる場所があってこそ大きく育つ
- (2) 子どもの「歓声」が「騒音」と捉えられかねない昨今。伸び伸びと過ごせる場所が減り、窮屈とらに感じている子もいるでしょう
- (3) 縦でもなく横でもない「斜めの関係」
- (4) 異世代の交流の場にもなる



- 何か用がなくても「そこに行けば誰かがいる」という安心感があることが、サードプレイスの意義だと思います。通って来ていた子は中学生になっても試験勉強期間などにフラッとやって来て、部活動の大会の話とか、高校受験の話などをしてくれます
- (5) 高齢者のためのコミュニティカフェも

3. (1) 住人が誇りに思い、地域が輝ける場がサードプレイスになる
- (2) 現在さまざまな都市に、従来型とは違うコミュニティプレイスの機能を備えた商業施設が多く建設されています
- (3) 幼少期の長屋が地域開発の原風景
- (4) 小さな空間が人との交流を促す
- (5) 地域が輝く場所に人は集まる
- (6) ヨーロッパのコミュニティプレイス パブ、バル、バー



- ① ヨーロッパにはアルコールを含む飲食が可能でありながら「社交場」の機能を備えたパブやバル(バー)といった場所が存在する
- ② 「パブ」… Public House (パブリック・ハウス)の略。アイルランド発祥でアイリッシュパブが有名。食事というよりはおつまみとなる料理が出る程度で、カウンターに座るか、立ち飲みスタイルがメイン。会計はカウンターで注文した時、その都度、精算する
- ③ 「バル」…スペインでは「バル」、イタリアでは「バー」が発音する。簡単な食事を提供するカフェスタイルだが、ワインやビールなどアルコールも提供する。朝から夜まで営業し

ていて、朝から昼にかけては座ってコーヒーにランチ、夜は仕事帰りに立ち飲みというスタイル

- ④「パール」…イタリアでは、パールで飲む立ち飲みのコーヒーは国により価格が決められていて、だいたい1～2ユーロ、座って飲むと3～5ユーロと3倍近くの価格になります。座って飲むとサービスを伴うからです。立ち飲みだと安いので、みな気軽に利用するのです

#### 4. 人との会話が心のオアシス

- (1) “第三の居場所” は人と付き合うことで生まれる
- (2) 趣味の集まりの場は、同好の士というだけで他人との距離感が近くなるため、とても心地のいい居場所になり得ます
- (3) 仕事の人も趣味の人も、僕の距離感は同じ
- (4) 人と出会うための趣味
- (5) 今ある場所から居場所は見つかる
- (6) サードプレイスは、一人でも複数でも楽しい



5. (1) 「好き」をもとに人と繋<sup>つな</sup>がるのが人生を豊かにする
- (2) 趣味の場は、サードプレイスになりやすいもの。それが人間関係を広げたり、期せずして仕事に繋がる人もいます

- (3) ブラジルでベリーダンスの虜<sup>とりこ</sup>に
- (4) 趣味がコミュニティを見つける糸口に
- (5) 「好き」が人生を広げるヒントになる



6. (1) 「役に立っている」と感じられる場所を持つ
- (2) コロナ禍<sup>か</sup>によって人が集まりにくくなり、人間関係の希薄化が進んでいます。そんな時代により重要さを増す「居場所作り」です。社会心理学者の碓井真史さんは、「グループに入らなくても居場所は作れる」
- (3) 生きるうえで大切なのは人との繋がり
  - (4) 有用感を得られる場所が大事
  - (5) グループに属さなくてもそこにいるだけでいい
  - (6) 自信を回復していく場としての第三の居場所
- 第三の居場所は、失くしてしまった居場所を取り戻す場にもなります

#### <コメント>

月刊誌「倫風」4月号は、超少子高齢化社会の最大の社会的課題である「居場所づくり」を真正面から取り上げた画期的な特集です。居場所(サードプレイス)づくりの最良のガイドブックと確信します。

2023年4月5日(水)林明夫